

はじめに

丹沢山地では、1980年代から生態系に大きな異変が起こり始め、広範囲にわたるモミやブナの立ち枯れ、林床植生とササの衰退、ニホンジカの個体数の増加によって、特に主稜線部のブナ帯における自然環境の劣化の進行などが目立ち始めました。こうした状況への対策を検討するために、県民、NPO、学識者、企業など多様な主体により、平成16年から平成18年にかけて「丹沢大山総合調査」が実施されました。

その結果、丹沢大山における諸課題を解決するために、より統合的かつ戦略的な自然再生を実行する必要があるとの認識から、自然再生の基本方向と新たな仕組みを示した「丹沢大山自然再生基本構想」が提言され、これを受けて神奈川県は、「丹沢大山自然再生計画（神奈川県）」を平成19年3月に策定しました。

本報告書は、平成19年度からスタートした丹沢大山自然再生計画の平成23年度まで5ヶ年の実施状況を、事業実績等をもとに取りまとめたものです。